

あいかわ 森のようちえん



平成28年3月19日～20日

神奈川県立愛川ふれあいの村

3月19日(土) 1日目

朝からポツポツと雨が降り続き、雨の日特有の植物や土の匂いが広がる中、主催事業『あいかわ森のようちえん』を開催しました。今回の参加者は17家族55名。はじまりのつどいの後は参加者とスタッフ、みんな一緒にウルトラジャンケンなどのゲームをして遊び、緊張している心と身体をほぐしていきます。



お昼を食べた後は、みんなで春を探しにあいかわたんけんたいにでかけます。「はやくいこー！」と子どもたちのワクワクが溢れています。小さい花を見つけたり、面白いきのこを触ってみたり「見て見て！」ととがった木の葉を見せてくれる子もいます。「見せて！」とお友達も興味津津。自分も探しに行きます。子どもたちの持つ『宝物袋』はどんどん大きく膨らみ、のぞいてみると、そこにはたくさんの春がありました。



たんけんの途中では大人と子どもは分かれて活動します。子どもたちは山の中へ進み、途中見つけた植物のツルを縄跳びに使ったり、落ち葉を使ったガのお家を作ったりしています。たんけんは道なき道も通り、一人では進めない所もお友達と助け合い登ることができました。下りは地面にお尻を付け滑り台のように降りていきます。



一方大人チームは、日常から少し離れてゆったりとした時間を楽しみます。しばらくして帰ってきた子どもたちは泥んこまみれ。自分の見つけたものや何をして遊んだのか楽しそうに報告しています。お父さんお母さんはたくさん遊んできた子どもたちに「たくさん遊んだんだね」と優しい笑みを見せていました。



夕食後は、ナイトアクティビティです。夜の探検の予定でしたが、ムササビが村内にいるとの情報が入り、急遽プログラムを変更しムササビを観察することに。木の間を滑空する姿を見て「あんなに遠くまで飛べるんですね」と皆さん感動していただけたようです。子どもが寝た後、大人は昼間の子どもたちのたんけんの様子をスライドショーで楽しみます。「あの子はこの事を言ってたのね」「だからあんなにお尻がどろんこだったのか！」と、たんけんたいから帰ってきた時の子どもたちの姿や話と照らし合わせ、納得している様子でした。

3月20日(日) 2日目

2日目の朝、まずはシーツを畳んでご飯を食べ、その後はロッジ清掃。みんなで協力して綺麗にしていきます。



この日のメインプログラムはアウトドアクッキング！メニューは手作りパンと旬の野菜スープです。まずはみんなで生地作り。「ネチョネチョする」と子どもたちは楽しそうに生地をこねています。発酵を待っている間、スープ係と火係に分かれてそれぞれの説明を聞きます。スープ係の子はお父さんお母さんに見守られながら上手に包丁を使って野菜を切り「上手に切れたよ！」と教えてくれました。火係は主にお父さんが中心となり、子どもと一緒に火起こしと炭を起こします。美味しいパンとスープを作るために、みんな楽しみながらも真剣な表情。発酵が終わったパンを丸く成形してダッチオーブンに並べたら、炭火に置き、焼き上がるのを待ちます。



焼きあがったパンは香ばしく、綺麗なきつね色をしています。食卓の準備ができたなら班のみんなで「頂きます！」焼きたてのパンは「ふわふわで美味しい！」旬の野菜スープも人気で、あっという間に無くなってしまいました。ごちそうさまの後はみんなでお片付け。子どもたちは食器洗いを担当して大きな四角い箱でお友達と楽しそうに洗います。大人たちは子どもから食器を受け取り、すすぎをしたりダッチオーブンのメンテナンスもします。子ども達が手伝いしやすい環境を作ることで、子どもも進んでお手伝いをしてくれました。



お片付けが終わった子どもたちは最後ののあそびへでかけ、木の枝で電車ごっこやトンネルを作ったり、坂を思いっきり駆け下りたりしていっぱい遊びます。他にも、コケや果実などを触ったり嗅いだりしてみたり、落ち葉や枯れ枝を踏んで音を聞いたりして五感をたくさん使いました。自然と触れ合うことで子どもの五感は刺激され、感性が磨かれます。ぜひこれからも近所の公園など外へ出かけて、のあそびを楽しんで下さい。文責：天野